

中国・南充市かわせみ座公演の新聞記事（日本語訳）

2012年5月25日～6月1日 ウニマ・第21回世界人形劇フェスティバル参加
中国・四川省南充市、仙北医学院世紀ホールにて



国内外の木偶影絵劇が艶やかに披露する

日本東京のかわせみ座が公演した「Silent Poems」

中国語の記事は、HP上（以下のURL）で見ることができます。ぜひご覧ください。

http://www.cncw.cn/pdf/ncrbnew/html/2012-06/02/content_279093.htm

《以下、記事の日本語訳》

●本新聞記者 王萍 邓斐

5月31日、南充市で行われた人形劇コンクールに、海外は日本から東京の劇団“かわせみ座”、セルビアから“カルメラ人形劇団”、アメリカから中国演劇ワークショップ・劇団“パンと人形”の、3団体。国内は、上海戯劇学院戯曲学院、漳州市人形劇団の2団体が参加しました。

日本・東京の劇団かわせみ座：「Silent Poems」

セットが一切無いシンプルな黒い舞台に、山の風景や水の流れをイメージさせる音楽が聞こえてくる。流星のような“風”が舞台上空をキラキラと駆け抜けていく。次の瞬間、一匹の“白い馬”が優雅に舞台に登場する。“白い馬”は“風”のあとを追って、地面を駆け、地を蹴り空中へと飛翔する・・・

舞台作りは非常に美しく、人々を詩的なイメージの世界へ引き込んでいく。

これは、私が5月31日に仙北医学院世紀ホールで観た舞台の話です。

公演は、東京(日本)の劇団かわせみ座が持ってきた「Silent Poems」という作品です。日本的な糸操りのパフォーマンス「Silent Poems」は、約60分の長さで、7つの小品で構成されていました。各小品は、それぞれ違う人形で描かれ、人形美術・製作・演出は全て自分たちで手掛けています。

“かわせみ座”の山本由也さんに話を聞きました。

『「Silent Poems」は言葉のない作品でありながら、観客に詩的な想像の世界を与えます。

人形と操演者がこの詩意充ちる舞台を通して、観客の心の中で交流し合い、共鳴を引き起こします。』

舞台には個性的でオリジナルな人形が次々と登場し、操演者の表現によって人形が、非常にコミカルでユーモラスのある演技をして、観客の笑いを誘う場面も多くみられました「夢のように魅力的で、非常に美しい舞台だった」「芸術性が高く、精巧な人形表現で感動した」などという感想を述べる観客も多くみられました。